

引用文献

- Azjen, I., & Driver, B.L. (1991). Prediction of leisure participation from behavioral, normative, and control beliefs: an application of the theory of planned behavior. *Leisure Science*, 13, 185–204.
- Berg, J., Evangelista, L.S., & Dunbar-Jacob, J.M. (1986/2007). 山崎裕美子(訳), コンプライアンス. Lubkin, I.M., & Larsen, P.D. 黒江ゆり子(監訳), クロニックイルネス 人と病いの新たななかかわり(第1版)(pp.157-179). 医学書院.
- Berry, T.R., Plotnikoff, R.C., Raine, K., Anderson, D., & Naylor, P.J. (2007). An examination of the stages of change construct for health promotion within organizations. *Journal of Health Organization and Management*, 21(2), 121-135.
- 藤村龍子.(2011). 術前患者の基本的ニーズ. 富田幾枝(編), 急性期・周手術期 I (pp.53-66). 中央法規.
- 林直子.(2015). 周手術期看護とは. 林直子(編), 成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看護 (pp.38-45). 南江堂
- 今西優子, 神家ひとみ, 原陽子, 森脇恵子, 森下利子.(2009). 心臓手術を受けた患者の術前におけるコントロール感覚. *高知女子大学看護学会誌*, 34(1), 125-133.
- 石橋まゆみ.(2015). 周術期管理チーム最前線 ここまで来たチーム医療 手術室看護師の役割 日本手術看護学会として. *日本臨床麻酔学会誌*, 35(7), 739-743.
- 伊藤丈二.(2017). 術前評価とその意義. 國原孝(編). ハートチームのための心臓血管外科手術 周術期管理すべて(pp.14-24). メジカルビュー社.
- Johnston, D.W., Johnston, M., Pollard, B., Kinmonth, A., Mant, D. (2004). Motivation is not enough: prediction of risk behavior following diagnosis of coronary heart disease from the theory of planned behavior. *Health Psychol*, 23(5). 533-8.
- 角口亜希子.(2014). セルフケア支援が心不全を予防する. 三浦稚郁子(編), 健康行動理論を活用した心不全患者のセルフケア支援(pp.2-9). 中山書店
- 笠谷美保.(2013). 療養過程のそれぞれの場面で緩和ケアをどう伝えるか 再発転移～治療終了～療養場所の選択時期(pct 看護師) 積極的がん治療終了から緩和ケア主体への移行期における外来での支援体制と看護師の役割. *がん患者と対症療法*, 24(1), 26-31.
- 加藤尚子.(2012). 慢性心不全におけるセルフケア. 眞茅みゆき, 池亀俊美, 加藤尚子. 心不全ケア教本(pp.271-286). メディカル・サイエンス・インターナショナル.

- 数間恵子. (2012).今日の外来看護-平成 24 年度診療報酬改定を踏まえて- 外来看護に求められる専門性と役割.看護実践の科学,37(7), 5-41.
- 数間恵子. (2016).外来診療部の現在 外来に求められる看護の専門性と役割 外来看護にかかわる診療報酬の視点から.病院設備,58(2), 18-21.
- 北貴志,大江理英,林直子,藪田初美,濱田弥生,井上潤一.(2014).大阪警察病院における周術期管理チームの立ち上げとその効果.日本手術医学会誌,35(1),48-54.コントロール.(2008)新村出(編).広辞苑(第 6 版)(p.1077).岩波書店.
- 厚生労働省.(2010).チーム医療の推進について.
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf>
- コントロール.(2008).新村 出(編).広辞苑(第 6 版)(p.1077).岩波書店.
- Lainscak,M.,Blue,L.,Clark,A.L.,Dahlstrom,U.,Dickstein,K.,Ekman,I.,. . . Jaarsma,T.(2011). Self-care management of heart failure: Practical recommendations from the patient care committee of the heart failure association of the european society of cardiology.European Journal of Heart Failure,13(2), 115-126.
- Lee,D.H.,Buth,K.J.,Martin,B.,Yip,A.M.,&Hirsch,G.M.(2010).Frail patients are at increased risk for mortality and prolonged institutional care after cardiac surgery.Circulation,121(8), 973-978.
- Lewis,P.R.,&Lubkin,I.M.(1986/2007).河井伸子(訳),病者役割.Lubkin,I.M,&Larsen,P.D.黒江ゆり子(監訳),クロニックイルネス 人と病いの新たなかわり(第 1 版)(pp.21-42).医学書院.
- Lorig Kate.(1998).ヘルスプロモーション活動の実践と課題 慢性疾患の自己管理 第三次予防のためのモデル.看護研究,31(1), 23-29.
- 町本実保,佐藤まゆみ,佐藤 禮子.(2011).冠動脈バイパス術を受ける患者の回復に対する認識と術後回復との関連.三重看護学誌,13, 103-116.
- Maslow Abraham Harold.(1970/1987).小口忠彦(訳),人間性の心理学.産業能率短期大学出版部.
- 松沼早苗. (2013).手術室におけるチーム医療 手術室におけるチーム医療 その専門性と役割分担 周術期における手術室看護師の役割.日本手術医学会誌,34(2),119-120.
- 松岡志帆.(2012).慢性心不全ケアに役立つ健康行動理論.眞茅みゆき,池亀俊美,加藤尚子.心不全ケア教本(pp.271-286).メディカル・サイエンス・インターナショナル.

- McKee,G.,Bannon,J.,Kerins,M.,Fitzgerald,G.(2007).Changes in diet, exercise, and stress behaviours using the stages of change model in cardiac rehabilitation patients.1. eur J cardiovasc nurs,6(3),233-40.
- 三淵未央.(2016).知っトク情報満載!手術看護認定看護師による実践ノート 周術期管理チームの立ち上げ.オペナーシング,31(3),280-284.
- 三浦英恵,井上智子,志水秀行.(2008a).大動脈瘤手術患者の病気認識と退院後の生活・療養行動に関する研究(第1部)腹部大動脈瘤患者を対象にして.日本循環器看護学会誌,4(1),25-34.
- 三浦英恵,井上智子,志水秀行.(2008b).大動脈瘤手術患者の病気認識と退院後の生活・療養行動に関する研究(第2部)胸部大動脈瘤患者を対象にして.日本循環器看護学会誌,4(1),35-44.
- 宮原俊介,大北裕.(2016).心臓血管外科 後編 心臓血管外科における周術期管理 リスク評価と術前管理 多様化する術式に対するリスク評価法のアップデート.Intensivist,8(1),3-17.
- 森田公美子.(2007).外来がん化学療法 求められるソフト面の見直し チーム医療としての外来化学療法 がん看護専門看護師の立場から.治療学,41(11),1137-1140.
- 森田雅教.(2011).人工心肺の構成. 龍野勝彦,重松宏,幕内晴朗,四津良平,安達秀雄.心臓血管外科テキスト(改訂2版)(pp.40-45).中外医学社.
- 本山清美.(2007).がん外来化学療法コンセプトシート 各職種の役割 外来がん化学療法におけるがん看護専門看護師の役割.医学のあゆみ,222(13),1160-1165.
- 内藤真弓,籀持知恵子.(2007).高齢心不全患者のセルフケアの実態 独居と家族同居の患者の事例を通して.ハートナーシング,20(12),1246-1251.
- 仲村直子.(2013).2病院に通院する複合疾患患者の心不全のコントロールと生活調整.看護研究,46(2),163-168.
- 中野清治,平原憲道,本村昇,宮田裕章,高本眞一.(2017).本邦における2013、2014年の心臓血管外科手術の現状 日本心臓血管外科手術データベース(jcvsd)からの報告 心臓弁膜症手術.日本心臓血管外科学会雑誌,46(5),199-204.
- 関利志子.(2008).慢性心不全で通院する後期高齢患者のセルフケアの課題と看護援助.老年看護学,13(1),40-48.
- 日本看護協会業務委員会(2010).外来における看護の専門性の発揮に向けた課題.日本看護

協会 HP.

<https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/fukyukeihatsu/gairaikango0731.pdf>.

日本麻酔科学会.(2008).麻酔科マンパワー不足に対する日本麻酔科学会の対策案.

<http://www.anesth.or.jp/info/pdf/suggestion20080807.pdf>

日本麻酔科学会・周術期管理チームプロジェクト(編).(2011).術前外来(評価)の目的と実践.

周術期管理チームテキスト : Perioperative care (第2版)(pp.4-8).日本麻酔科学会.

日本循環器学会, 日本移植学会, 日本胸部外科学会, 日本高血圧学会, 日本小児循環器学会, 日本心臓血管外科学会, 日本心臓病学会, 日本心臓リハビリテーション学会, 日本心電学会, 日本心不全学会, 日本超音波医学会, 日本内分泌学会, 日本不整脈学会: 循環器病の診断と治療に関するガイドライン(2009年度合同研究班報告). 慢性心不全治療ガイドライン(2010年改訂版).

野端万里, 井上玲子, 渋谷豊克.(2012).周術期患者のニーズを捉えた外来での手術室看護師窓口の導入と効果.日本手術医学会誌,33(2),158-162.

則末 泰博.(2016).心臓血管外科 後編 術後合併症 心臓血管外科術後のショック 低心拍出量症候群(los)を中心に.Intensivist,8(1), 117-127.

岡本里香.(2013).なぜセルフマネジメントなのか.安酸史子,鈴木純恵,吉田澄恵(編).セルフマネジメント(第2版)(pp.12-14).メディカ出版.

Riegel, B., Moser, D. K., Anker, S. D., Appel, L. J., Dunbar, S. B., Grady, K. L., . . . on behalf of American Heart Association Council on Cardiovascular Nursing, Council on Clinical Cardiology, Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism, and Interdisciplinary Council on Quality of Care and Outcomes Research. (2009). State of the science: Promoting self-care in persons with heart failure: A scientific statement from the american heart association.Circulation,120(12), 1141-1163.

リスク.(2008).新村 出(編).広辞苑(第6版)(p.1585).岩波書店.

齋藤綾,平原憲道,本村昇,宮田裕章,高本眞一.(2017).本邦における 2013、2014 年の心臓血管外科手術の現状 日本心臓血管外科手術データベース(jcvsd)からの報告 単独冠動脈バイパス手術.日本心臓血管外科学会雑誌,46(5),195-198.

佐藤健治.(2012).チーム医療の現在を一举紹介!周術期管理チームの実践と看護師の役割 周術期管理センター(ペリオ)の実際と看護師の役割.オペナーシング,27(2),216-219.

佐藤まゆみ.(2015).手術前期の看護.林直子(編),成人看護学 急性期看護 I 概論・周手術期看

- 護(pp.48-64).南江堂
- セルフケア.(2017).井部俊子,箕輪良行(監修),看護・医学事典(第7版増補版)(p.543).医学書院.
- 柴辻里香,安酸史子.(2003).患者教育.日本健康教育学会(編).健康教育ヘルスプロモーションの展開(pp.167-173).保健同人社.
- 志水秀行,平原憲道,本村昇,宮田裕章,高本眞一.(2017).本邦における2013、2014年の心臓血管外科手術の現状 日本心臓血管外科手術データベース(jcvsd)からの報告 胸部大動脈手術.日本心臓血管外科学会雑誌,46(5), 205-211.
- 竹川幸恵.(2013)."専門看護師"活用で病院が変わる!看護管理者が知っておきたいcnsの可能性「専門看護師」実践報告と看護管理者の視点 慢性疾患看護「呼吸器看護専門外来」開設で病院と在宅を結ぶ看護にも貢献.看護,65(14),89.
- 瀧口章子.(2013).外科における看護の役割.磯野可一(編),ナースの外科学(pp.2-8).中外医学社
- 田村富美子,宇都宮明美,梅田恵,山田雅子,聖路加看護学会高度実践看護検討委員会.(2014).専門看護師による看護外来に関するインタビュー調査.聖路加看護学会学術大会講演集,19, 42.
- 丹野香織,澤田幸子,寺田えり子,高橋伸二,左津前剛.(2015).当院における手術室看護師による麻酔科術前外来の現状.日本手術医学会誌,36(2),146-148.
- 寺田享志,吉田実知,関谷秀樹,堀江彰久,飯久保尚.(2014).周術期管理チームから見たこれからのチーム医療 周術期管理チームのメンバーに求められる役割.呼吸器ケア,12(1), 71-77.
- 内田真紀子,竹川幸恵,平田聡子,渡部妙子,川崎ますみ.(2008).わたしたちの呼吸ケア向上計画 慢性呼吸不全患者を支援する病棟-外来の連携システム 病棟から外来への継続看護を中心に.呼吸器ケア, 6(7),644-648.
- 上田稚代子.(2008).冠状動脈バイパス術を受ける患者の周術期における体験の明確化.和歌山県立医科大学保健看護学部紀要,4, 19-29.
- Usui A.,Abe T.,Araki Y,Narita Y,Mutsuga M,Oshima H.(2015).The number of cardiovascular surgeries in Japan may decrease after 2020. Nagoya J Med Sci.Aug,77(3),389-98.
- 宇都宮明美.(2014).質の高い看護実践をめざす循環器領域における専門看護師・認定看護師

の役割と課題 急性期看護専門看護師の循環器領域における実践.日本循環器看護学会誌,10(1), 25-26.

宇都宮明美,梅田恵,田村富美子,山田雅子.(2014).専門看護師による看護外来実施に関する実態調査.第18回日本看護管理学会学術集会誌, 35.

山口郁美,中村めぐみ.(2013).看護の専門性を発揮する緩和ケアの相談外来 (事例 1)専門看護師による相談外来で患者本人の希望に寄り添う.看護, 65(15), 66.

山本千恵.(2015). 周術期管理チーム最前線 ここまで来たチーム医療 周術期管理チームにおける多職種連携と看護師の役割 チームで取り組む術前外来を中心に.日本臨床麻酔学会誌,35(7),744-749.

安酸史子.(2013).セルフマネジメント支援の構成要素.安酸史子,鈴木純恵,吉田澄恵(編).セルフマネジメント(第2版)(pp.15-18).メディカ出版.

米田昭子.(2009).看護の役割 今、何が問われているのか? 看護外来への展望 慢性期をサポートするために.看護,61(10),54.